

II

社会参加・共生推進学習事業の概要



多摩市民館 識字学習活動

Ⅱ 社会参加・共生推進学習事業の概要

社会参加の機会が少ない市民を対象に、社会参加を促進するための支援学習を行った。外国人市民等（外国人市民や帰国した日本人市民）が日常生活に必要な日本語などを学ぶ識字学習活動、国語・数学などを中心に中学校課程の基礎的知識と教養を学ぶ社会人学級、障がいのある人の余暇活動と社会参加をめざす障がい者社会参加活動等の事業を各区の地域性を活かしながら実施した。

1 識字学習活動

識字学習活動は、外国人市民等が日本での生活を円滑に営めるように、日常生活に必要な基礎的日本語を身につける場であり、支援する場である。1985（昭和60）年から中原市民館で実施していた社会人学級の日本語科（夜間）を国際識字年である1990（平成2）年に識字学級として独立させ、さらに午前の学級を新たに開設した。その後、1992（平成4）年に麻生市民館、1993（平成5）年に教育文化会館田島分館、幸市民館で順次開設し、1996（平成8）年からは全市民館で実施されるようになった。各館では識字・日本語ボランティアが学習のみならず日常生活を支援している姿が見られる。学習者は異文化理解への協力者として地域（学校）などで活躍し、識字・日本語学級の意義を地域で広めている。なお、識字・日本語ボランティア活動にあたる人々の活動の指針となるガイドライン『川崎市識字・日本語学習活動の指針』〔2003（平成15）年3月〕が市民参加により策定され、活動のよりどころとなっている。

2 識字ボランティア研修

『川崎市識字・日本語学習活動の指針』『川崎市外国人教育基本方針－多文化共生の社会をめざして－』に基づき、識字（日本語）学級の学習者と支援者（ボランティア）の学び合う関係づくり、ボランティアの資質の向上、共に生きる地域社会の創造をめざして実施した。2010（平成22）年度も分館を除く全館で実施した。新しくボランティアになりたい人向けの入門研修とすでにボランティア活動を行っている人向けのプラッシュアップ研修を実施した。2004（平成16）年3月に川崎市識字学級研究開発委員会によりワークショップ（参加体験型学習）等の研修の試案が提案され、2006（平成18）年度から、南・中・北部の各地域単位での実践が始まっている。

3 社会人学級

中学校を卒業しているが、様々な事情で十分な学習ができなかった人を対象に、日常生活に必要な中学校課程の基礎的な知識、教養を学ぶ機会を提供するため、中原市民館で1982（昭和57）年に開設した。2002（平成14）年度から会場を教育文化会館に移して開設し、2010（平成22）年度も国語、数学、音楽、課外活動（特別講座）の学習を行った。

4 障がい者社会参加活動

障がい（主に知的障がい）のある青年を対象に、社会参加に必要な知識・技能の向上を図り、地域の中で交流を深めることをめざして、1966（昭和41）年に産業文化会館（現教育文化会館）で初めて開設した。1998（平成10）年には、全市民館で実施されるようになったが、一部の館では、ボランティアスタッフの人数に対して参加希望者が多く、人数制限せざるを得ない状況にある。現状では、参加者自身が一人で通える場合に限定している館が多いが、精神に障がいがある人、重度や在宅の障がい者への学習提供のあり方や当事者の参画など課題は多い。

5 障がい者ボランティア研修

障がい者の理解やボランティア活動のあり方などの研修を行い、障がい者が学習する権利の保障と充実、障がい者の学習に関わるボランティアの人権意識の向上を目指して実施している。「障害者ボランティアリーダー研修」として1997（平成9）年度から開設した。全市の障がい者社会参加活動のボランティアを対象としている。

Ⅱ 1 識字学習活動

教文 (にほんごひろば)

開設期間	4月14日(水)～3月2日(水) 19:00～20:30 合計40回		
ボランティア	日本語支援	53名(グループなし)	保育 6名(登録ボランティア)
事業事例	・サマーパーティ(7/18) 参加者 67名 ・浴衣を着る会(8/4) ・料理教室(11/17) 参加者 11名 ・ウインターパーティ(12/19) 参加者 68名 ・「にほんごひろばニュース」No.1～40発行(基本的に毎学習日)		

幸(1) (幸日本語学級 午前コース)

開設期間	4月14日(水)～3月16日(水) 10:00～11:30 合計38回		
ボランティア	日本語支援	21人(グループなし)	保育 8人(キャンディ)
事業事例	・夏のイベント(7/14) みんなで歌おう、シーパ、魚釣りゲーム、踊り(サラサ)等 参加者37人 ・冬のイベント(12/15) 折り紙、チャリーンゲーム、魚釣りゲーム、うちわピンポンゲーム、ジェンカ等 参加者31人		

幸(2) (幸日本語学級 夜間コース)

開設期間	4月8日(木)～3月17日(木) 19:00～20:30 合計35回		
ボランティア	日本語支援	16人(グループなし)	保育 なし
事業事例	・夏のイベント(紙芝居、bingo)(8/5) 参加者25人 ・電気の資料館(9/25) 参加者10人 ・冬のイベント(フルーツバスケット、震源地チーム、手品、ラーメン体操、bingo)(12/16) 参加者35人		

中原(1) (火曜日昼間コース)

開設期間	4月27日(火)～3月8日(火) 10:00～12:00 合計33回		
ボランティア	日本語支援	24人(ことばの木)	保育 8人(どんぐりの会)
事業事例	・茶話会(6/8) 参加者49人 ・料理教室(10/19・26) 参加者57人 ・生け花教室(11/16) 参加者7人 ・お楽しみ会(12/14) 参加者74人 ・文集作成(3月)		

中原(2) (火曜日夜間コース)

開設期間	4月13日(火)～3月15日(火) 18:30～20:30 合計37回		
ボランティア	日本語支援	14人(はらっぱ)	保育 なし
事業事例	・卓球大会(7/13) 参加者33人 ・遠足:夢見ヶ崎動物公園(10/30) 参加者20人 ・料理教室(12/14) 参加者33人 ・日本語スピーチコンテスト出場(2/19) 川崎市国際交流センター 出場者蔡佳芳 ・茶話会(3/15) *震災のため中止 ・文集作成(3月)		

高津(1) (たかつにほんごきょうしつ 昼コース)

開設期間	4月28日(水)～3月9日(水) 10:00～11:30 合計34回		
ボランティア	日本語支援	20人(あいうえおの会)	保育 10人(高津保育グループ)
事業事例	・七夕まつり～盆おどりと折り紙(7/7) 講師 高津区文化協会 内海ろ之裕 他6名 創作折り紙作家 宮島 登 参加者 35名 ・高津小学校での国際交流総合学習への参加(11/17) ・忘年会(12/8) ・文集作り ・料理で国際交流をしよう!(3/2)		

高津(2) (たかつにほんごきょうしつ 夜コース)

開設期間	4月15日(木)～3月10日(木) 19:00～20:30 合計36回			
ボランティア	日本語支援	18人(三本木の会)	保育	なし
事業事例	<ul style="list-style-type: none">1学期末交流パーティー(7/8) 参加者55名秋の課外活動 日本民家園(11/3) 参加者41名忘年会(12/9) 参加者70名3学期末交流会(3/10) 参加者38名			

宮前(1) (日本語学級 昼コース)

開設期間	4月16日(金)～3月11日(金) 10:00～12:00 合計34回			
ボランティア	日本語支援	23名(宮前日本語ボランティアの会)	保育	24名(登録ボランティア)
事業事例	<ul style="list-style-type: none">浴衣の試着(主催:LET's国際ボランティア交流会)と盆踊り体験(協力:宮前区老人クラブ連合会)(7/9)・ブラッシュアップ研修企画運営(9/17 10/15)・文集作成のための編集会議 5回(7/9～2/4) 延べ参加学習者 18名・交流会(12/10) 　・工場見学(10/29) 　・中華街ランチ(11/26)・スピーチコンテスト(3/11) ※宮前日本語ボランティアの会との協働事業			

宮前(2) (日本語学級 夜コース)

開設期間	4月14日(水)～3月2日(水) 19:00～20:30 合計35回			
ボランティア	日本語支援	12名(宮前夜間クラス)	保育	なし
事業事例	<ul style="list-style-type: none">・ミーティング			

多摩(1) (たまにほんごクラス 午前コース)

開設期間	4月14日(水)～3月16日(水) 10:00～12:00 合計36回			
ボランティア	日本語支援	21人(多摩にほんごの会)	保育	25人(多摩保育グループ)
事業事例	<ul style="list-style-type: none">・盆踊り教室(7/14) 講師 多摩区文化協会 3人 参加者27人・忘年会(12/14) 参加者33人・毎月最終学習日は、学習者同士の交流・情報交換を活性化するために大会議室で活動			

多摩(2) (たまにほんごクラス 夜間コース)

開設期間	4月9日(金)～3月4日(金) 19:00～20:30 合計37回			
ボランティア	日本語支援	17人(グループ「たま語」)	保育	なし
事業事例	<ul style="list-style-type: none">・交流会(5/14) 参加者22人・夏の和室イベント(6/18、25) 参加者17人、23人・盆踊り(7/23) 参加者20人・料理教室(10/22) 参加者27人・忘年会(12/17) 参加者19人			

麻生(1) (あさおにほんごクラス 午前コース)

開設期間	4月15日(木)～3月17日(木) 10:00～12:00 合計33回			
ボランティア	日本語支援	24人(グループなし)	保育	11人(ジャンケンポン)
事業事例	<ul style="list-style-type: none">・料理(お好み焼き・チヂミ)(7/15) 参加者56人・料理(餃子)(12/9) 参加者57人・料理(おにぎり・各国のスープ)(3/17) *震災のため中止			

麻生(2) (あさおにほんごクラス 夜間コース)

開設期間	4月15日(木)～3月17日(木) 18:30～20:00 合計33回			
ボランティア	日本語支援	12人(グループなし)	保育	なし
事業事例	<ul style="list-style-type: none">・料理(ぎょうざ作り)(7/15) 参加者19人・料理(おにぎり作り)(12/9) 参加者19人・文集作りと発表(3/17) *震災のため中止			

学習者国別リスト

No.	出身国・地域	教文 夜	幸		中原		高津		宮前		多摩		麻生		合計
			午前	夜	午前	夜	午前	夜	午前	夜	午前	夜	午前	夜	
1	アメリカ	2	1		2	4	1	5	1	5	11	1	11	10	54
2	アルジェリア						1	1							2
3	アルゼンチン		1	1							3				5
4	イギリス				1	2	3	5	1	1		2	1		16
5	イスラエル										9				9
6	イタリア								1						1
7	イラン				1		1	3			1				6
8	インド	35	8	1	1		1	3	1			1	3	7	61
9	インドネシア	7	1			4	1	3	3	2		2			23
10	ウクライナ								3						3
11	ウズベキスタン								1	1					2
12	エクアドル										2				2
13	エチオピア								1						1
14	オーストラリア		1					2				1			4
15	オランダ							1							1
16	ガーナ					2					1				3
17	カナダ				2			2					1		5
18	韓国	31	12	6	9	6	7	7	6	1		3	4	4	96
19	カンボジア					1						1			2
20	ギニア							3							3
21	キルギス							1							1
22	ケニア										1				1
23	コスタリカ							1					1		2
24	コロンビア		1	1				1							3
25	ジャマイカ											1			1
26	シンガポール							1			1	1			3
27	スイス										1				1
28	スペイン	1													1
29	スリランカ	4							1	1			1	3	10
30	セネガル	1													1
31	タイ	19	1		8	2	4		7				6	2	49
32	台湾	32	3	3	13	3	11	22	5		5	4	1		102
33	チュニジア							1			5				6
34	中国	132	35	22	34	35	47	56	17	16	23	32	20	13	482
35	チリ										1	1			2
36	デンマーク			1	1										2
37	ドイツ									2			1	1	4
38	トルコ				1		2	1							4
39	トルクメニスタン						1								1
40	ナイジェリア							1			1	1			3
41	日本	2							1		1				4
42	ニュージーランド			1											1
43	ネパール	5	1	1	2	10	1	11	2	2	8	5	1		49
44	パキスタン	3	1	1											5
45	バングラデシュ			1	1	1					2				5
46	フィリピン	47	11	3	18	5	13	11	7		24	3	5	1	148
47	フィンランド							1					2		3
48	ブラジル	4	1			6	1	6	1	1					20
49	フランス							2	4	2	3	1		1	13
50	ベトナム	23	1	1	2	10	1	8			9	4	2		61
51	ベネズエラ		1		1				1						3
52	ペルー	13	2	5	3		1								24
53	ボリビア	4	1		2										7
54	香港									1					1
55	ホンジュラス						1								1
56	マレーシア		1		4		3	1			3				12
57	ミャンマー (ビルマ)	1								3	1	1			6
58	メキシコ	1	2	1	1		2			1					8
59	モロッコ				1				1		1				3
60	モンゴル	1				1		3							5
61	ルーマニア	1					2	1							4
62	ロシア										2	1	2		5
合 計		369	86	49	109	91	106	167	63	39	118	62	65	42	1,366
参加延べ人数		2,349	1,243	583	924	588	1,032	1,636	737	289	914	465	810	350	11,920

Ⅱ 1 <参考> ボランティア交流事業

地域日本語ネットワークのつどい

日 時	12月4日(土) 13:00 ~ 18:00
会 場	中原市民館
内 容	<p>識字・日本語学習活動のあり方について、ボランティアや職員等、関係者が情報交換を行い、学級での今後の改善に役立てる目的で行っている。</p> <p>地域日本語教育推進事業の一環として実施され、地域日本語連絡会（識字学習活動担当職員と、活動に関わるボランティアの連絡協議組織）が中心となって企画・運営にあたった。</p> <p>テーマ：「みんなでかんがえる“日本語ボランティア”」 多文化共生社会実現のために外国人市民とともに学ぶ識字・日本語学習活動を具体的にどのように発展させていくかを、「生活のための日本語」という視点から学ぶ。また、協力してワークショップを行うことにより、普段交流のないボランティア同士の交流を図り、つながりを築く。</p> <p>講 師：公益社団法人 国際日本語普及協会 (AJALT) 地域日本語教育担当理事 関口 明子 日本語教師 松尾 恭子 ゲ ス ト 若本 ベラスケス ルシア</p>
参 加 者	102名 (内訳：識字ボランティア 90名、職員 12名)

地域日本語連絡会

回	月日	曜	内容	会場
1	4・17	土	情報交換・報告事項 平成22年度役割分担 7月自主研修について 他	高津市民館 第5会議室
2	5・22	土	情報交換・報告事項 7月自主研修について	中原市民館 第1会議室
3	6・19	土	ネットワークのつどい準備 他	高津市民館 第5会議室
4	7・10	土	自主研修会 「生活者としての外国人」講師：野山 広（国立日本語研究所）	中原市民館 視聴覚室
5	8・28	土		高津市民館 第4会議室
6	9・11	土	情報交換・報告事項	高津市民館 第5会議室
7	10・16	土	ネットワークのつどい準備 他	高津市民館 第5会議室
8	11・13	土		教育文化会館 第1学習室
9	1・22	土	情報交換・報告事項	多摩市民館 第1会議室
10	2・19	土	ネットワークのつどい降り返り 他	教育文化会館 第2会議室
11	3・19	土	情報交換・報告事項 *震災のため中止	中原市民館 実習室

Ⅱ 2 識字ボランティア研修

教文 識字ボランティア研修（ブラッシュアップ）

タイトル：識字・日本語ボランティア研修（ブラッシュアップ）

主 題：通常の学習場面の中で支援方法の幅を広げ、スキルを磨く

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1 24	5・26 2・9	水	日頃の活動で感じている日本語教授法についての疑問や不安を共有し、解消する	実際の学習場面において、入門・初級レベル、中級レベル、上級レベルの各クラスの活動内容に合わせて、学習する事柄、注意点を知り、それぞれのレベルでの幅広い学習展開の方法を考える	拓殖大学日本語教育研究所 講師 大越 貴子

●開設場所 教育文化会館 ●時間 帯 18:30～21:00

●対 象 日本語学習支援活動を行っている方及び関心のある方

●参加者数 10人（男2人、女8人） ●延べ人数 78人

幸 識字ボランティア研修

タイトル：識字ボランティア入門研修

主 題：識字学習活動の意義を理解し外国人市民への学習支援活動を考える

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	6・19	土	外国人市民が日常感じていることを擬似体験したり、話を聞くことにより、ともに暮らしていくために何ができるかを考える	オリエンテーション 異言語体験学習	外国人市民 3人 職員
2	26	土		外国人市民から見た川崎のまちの暮らしやすさ、暮らしにくさなどを、実際にまち歩きを通して体感する	神奈川大学 准教授 富谷 玲子 外国人市民 3人
3	7・3	土		まち歩きから得られた生活情報を学習教材として活かすための手法を学ぶ	富谷 玲子
4	14	水	川崎市で実施する識字日本語学級とは何か、識字日本語学級で「ともに学ぶ」ということは何かを考える	ワークショップで学ぶ＜識字の理念＞とは？	多摩市民館社会教育振興係長 中村 高明
5	8・25	水		災害時に生かすやさしい日本語を学ぶ	独立行政法人国立国語研究所 名誉所員 米田 正人
6	9・8	水		学習者の話を聞く	外国人市民 5人 職員
7	9	木		識字学級の見学	幸日本語学級（夜） ボランティア
8	29	水		これまでの研修を振り返って	職員

※ 6／19（土）、6／26（土）、7／3（土）は教文・幸・ふれあい館の合同研修です。

●開設場所 教育文化会館、幸市民館 ●時間 帯 主に 13:00～15:00

●対 象 関心のある方 ●参加者数 6人（男1人、女5人）

●延べ人数 30人

幸 識字ボランティア研修

タイトル：識字ボランティア研修（午前ブラッシュアップ）

主 題：識字学習活動の意義を再認識し外国人への日本語学習支援活動を考える

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	6・23	水	「ともに学ぶ」という識字の理念のもとに、自分たちの学びの場を学習の参加者全員で検証しこれからのあり方を模索する姿勢を培う。	日本語学級の運営の振り返り	日本語学級ボランティア職員
2	7・14	水		ワークショップで学ぶ<識字の理念>とは？	多摩市民館社会教育振興係長 中村 高明
3	8・25	水		災害時に生かすやさしい日本語を学ぶ	独立行政法人国立国語研究所名誉所員 米田 正人
4	9・22	水		即興劇に基づく会話手法 外国人市民への質問の仕方	明海大学 講師 西川 寛之
5	2・9	水		自分たちが語り合えるためのテキスト学習とは	TIJ 東京日本語研究所 名誉所長 高柳 和子
6	16	水		まとめ、振り返り *震災のため中止	職員
7	23	水			
8	3・16	水			

●開設場所 幸市民館

●時間 帯 13:00～15:00

●対 象 関心のある方

●参加者数 21人（男6人、女15人）

●延べ人数 110人

幸 識字ボランティア研修

タイトル：識字ボランティア研修（夜間ブラッシュアップ）

主 題：識字ボランティアの資質向上を図り、多文化共生の実現をめざす

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	9・16	木	多様な文化をもつ市民が共に生きる地域社会の実現をめざすための活動や学級のあり方について考える	「日常生活に必要な日本語」の学習方法について学ぶ	学習院大学 教授 金田 智子
2	11・18	木		生活言語学習を効果的に進めるため身近な素材を使ったオリジナル教材作りを学ぶ	創作にほんご集団 浅野 陽子
3	2・17	木		多様化する学習者のニーズにどのように対応するか、認知言語学の観点から学ぶ	外語ビジネス専門学校 講師 米澤 文彦

●開設場所 幸市民館

●時間 帯 18:30～20:30

●対 象 識字・日本語ボランティア及び関心のある方

●参加者数 16人（男5人、女11人） ●延べ人数 44人

中原 識字ボランティア研修（入門）

タイトル：日本語ボランティア入門講座

主 題：多文化共生社会をめざす日本語ボランティア

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	9・18	土	国際化社会における市民意識のあり方とは	国際化社会の進展と市民感覚	東京国際大学 学長補佐 遠藤 克弥
2	10・2	土	川崎市の多文化共生施策を知る	川崎市の識字学級の歴史と外国人市民の現状	中原区役所 副区長 山崎 信喜
3	5 8 9	火 金 土	日本語ボランティアの活動を知る①	中原区内の日本語ボランティアグループの活動を見学する	ことばの木、はらっぱ せかいじん、 INTEX-V-NET
3	16	土	外国人にとっての日本語学習の意義	外国人にとっての日本語学習	NPO法人K F V 理事長 金 熙淑
4	30	土	日本語学習支援の進め方	学習支援の方法(1) 生活に必要な日本語とは	神奈川大学 准教授 富谷 玲子
5	11・7	日		学習支援の方法(2) ともに学ぶ「参加」型学習	
6	20	土	外国人市民の生活課題とは	外国人相談の現場からみえる外国人市民の生活課題（川崎市国際交流センター）	川崎市国際交流協会 相談員 神戸 洋子
7	12・4	土	日本語ボランティアの活動を知る②	「第15回地域日本語ネットワークの集い」に参加する	(社)国際日本語普及協会 関口 明子、松尾 恭子
8	18	土	学習のまとめ	共生のまちづくりと日本語ボランティアに期待すること	立教大学 非常勤講師 山田 貴夫

●開設場所 中原市民館 他

●時間帯 主に 13:30～15:30

●対象 関心のある方

●参加者数 32人（男5人、女27人）

●延べ人数 172人

中原 識字ボランティア研修（ブラッシュアップⅠ）

主 題：ボランティアの資質向上を図り、学級の課題解決に繋げる

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	11・30	火	中級日本語に取り組む姿勢と学習の方向性を学ぶ	「みんなの日本語」「中級へ行こう」を使用し、学習を運営していくまでの具体的な手法や技法を学ぶ	「みんなの日本語初級Ⅰ」「中級へ行こう」著者 平井 悅子
2	12・7	火			
3	14	火			

●開設場所 中原市民館

●時間帯 13:00～15:00（③は14:00～16:00）

●対象 日本語ボランティア及び関心のある方

●参加者数 30人（男3人、女27人） ●延べ人数 84人

中原 識字ボランティア研修（ブラッシュアップⅡ）

主 題：ともに学ぶ識字学級をめざして

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	2・13	日	対話による日本語学習の工夫	中部地区合同研修<中原・高津・宮前>会話が盛り上がる学習の進め方	東京外国语大学 多言語・多文化教育研究センター フェロー 吉田 聖子
2	3・13	日	就労している外国人への日本語支援	日本語学習とビジネス・コミュニケーション～仕事で役立つ日本語とは	政策研究大学院大学 准教授 近藤 彩

●開設場所 中原市民館

●時間帯 主に 10:00～12:00

●対象 関心のある方

●参加者数 16人（男1人、女15人）

●延べ人数 28人

高津 高津市民館識字ボランティア入門研修

タイトル：～市民館でボランティアを始めよう！～

主 題：市民館で日本語ボランティアを始めよう！

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	7・17	土	市民館で日本語ボランティアを始めるにあたって、必要な知識を身につける	自己紹介・川崎の市民館の日本語学級について知る	菅生分館 分館長 西山 和美
2	24	土		基本的人権としての識字学級に期待されるものとは	NPO法人K F V代表 金 熙淑
3	31	土		ボランティア活動って、そもそもなんだろう	国際アカデミー日本語学院 学院長 渥美 明
4	8・7	土		外国人に日本語を教える事について①②	三本木の会 / あいうえおの会 ボランティアスタッフ
5	21	土		川崎の日本語学級を知る①(高津区)	ともしびの会 ボランティアスタッフ
6	28	土		川崎の日本語学級を知る②(川崎区)	教育文化会館ボランティア
7	9・1	水		多文化共生に向けてふれあい館が築いてきたものについて知る	ふれあい館 職員 原 千代子
8	4	土		外国人を取り巻く法律制度について知る	法政大学 非常勤講師 山田 貴夫
9	11	土		これからの川崎の日本語学級が目指すもの ボランティアとしてできることを考える	法政大学 教授 山田 泉
10	18	土			

●開設場所 高津市民館 他 ●時 間 帯 10:00～12:00

●対 象 日本語ボランティア活動予定者

●参加者数 36人(男15人、女21人) ●延べ人数 148人

宮前 識字ボランティア研修

タイトル：日本語ボランティアブラッシュアップ研修Ⅰ

主 題：地域で活躍する日本語ボランティアに求められる姿を学びます

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	9・17	金	さまざまな言語や文化背景を持つ人々が集まって日本語を話すための手法を学ぶ	・おしゃべりから最初のアプローチのきっかけをつかむ ・なぜ、「にほんご宝船」のようなテキストが必要なのか(ワークショップ) ・テキスト「にほんご宝船」を使って、スムーズに本題へ広げていく具体例を学ぶ ・接点を創る・場を創り出す力につける	(財) 海外技術者研修協会 日本語教育センター長 春原 憲一郎
2	10・15	金	多文化共生社会で求められるものとボランティアの力について考える	多様化する活動について学ぶ ・地域の日本語学習活動とは ・日本人同士・外国人同士・日本人と外国人の交流とは ・活動を地域へ広げていく方法を考える	東京外国语大学 留学生日本語教育センター 教授 伊東 祐郎
3	22	金	講座を通して見えてきた活動課題を共有して、次へのステップにつなげることを考える	研修を振り返って、生活者としての外国人市民と支援者について考える	職員

●開設場所 宮前市民館 ●時 間 帯 14:00～16:00

●対 象 識字ボランティアの活動経験のある方

●参加者数 43人(男5人、女38人) ●延べ人数 52人

宮前 識字ボランティア研修

タイトル：日本語ボランティアブラッシュアップ研修Ⅱ

主 題：地域で目指すべき日本語支援について考える

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	3・9	水	多文化共生を目指すべく識字学習の運営を通して、地域で目指すべき日本語支援について考える	オリエンテーション／自己紹介／グループ学習の意義と進め方	東京外国语大学 多言語多文化教育研究センター フェロー 吉田 聖子
2	26	土	ボランティアと学習の場づくりを通して、地域で目指すべき日本語支援について考える	学習者の声をひきだす双方向コミュニケーション	

- 開設場所 宮前市民館
- 時間 帯 18:30～20:30
- 対 象 識字ボランティアとしての活動経験のある方、および関心のある方
- 参加者数 13人(男6人、女7人)
- 延べ人数 18人

宮前 識字ボランティア研修(入門)

タイトル：日本語ボランティアブラッシュアップ研修

主 題：学習者とボランティアが共に学び合う関係づくりについて学ぶ

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	10・6	水	川崎市の市民館における識字理念を理解する	オリエンテーション 川崎市識字学級の理念について	菅生分館 分館長 西山 和美
2	13	水	ボランティアに必要なコミュニケーション能力を高める	コミュニケーションとは? ～ことばことばという前に～	(財) 海外技術者研修協会 日本語教育センター長 春原 憲一郎
3	20	水	日本語学習を通じた地域での多文化共生社会を考える	地域日本語学習支援とは? ～識字ボランティアの役割～	法政大学 キャリアデザイン学部 教授 山田 泉
4	27	水	日本語学習支援の方 法を学ぶ	日本語学習支援の方法を学ぶ①②	日本女子大学 文学部 教授 江田 すみれ
5	11・10	水			
6	17	水	外国人市民について理解する	外国人市民の現状と課題を知る	(財) 川崎市国際交流協会 事務局長 迎 スミ子
7	24	水	学習者と共に学び合うボランティア活動を考える	学習者の場づくりを考える	東京外国语大学 多言語・ 多文化教育研究センター フェロー 吉田 聖子
8	12・1	水		日本語学習支援の現場を見て学んだこと/ 感想の共有化を図る(具体的な学習事例を挙げて、留意点や実践方法を学ぶ)	

- 開設場所 宮前市民館
- 時間 帯 18:30～20:30
- 対 象 関心のある方
- 参加者数 33人(男7人、女26人)
- 延べ人数 213人

中原・高津・宮前 識字ボランティアブラッシュアップ研修

タイトル：日本語ボランティアのスキルアップ研修

主 題：会話を盛り上げるための学習の進め方

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	2・13	日	実際に使える学習でのコミュニケーションについて学ぶ	【中原・高津・宮前合同研修】会話中心の学習について参加者同士で情報の交換・共有をする。また、実際に会話が盛り上がる学習内容にするための工夫について、具体的な事例を踏まえて実践的に学ぶ	東京外国语大学 多言語・多文化教育研究センター フェロー 吉田 聖子

●開設場所 中原市民館 ●時間帯 10:00～12:00

●対 象 日本語ボランティアまたは関心のある方

●参加者数 39人(男10人、女29人)

多摩 識字ボランティア研修(1)

主 題：日本語学習支援の具体的方法について

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	6・9	水	地域に暮らす外国人市民への学習支援の具体的手法について	学習活動開始期における日本語学習支援の手法について①②③	東京外国语大学 多言語・多文化教育研究センター フェロー 吉田 聖子
2	7・7	水		地域における共同学習を実践するための日本語学習支援の手法について①②③	
3	9・22	水		幅広い学習要求に対応するための手法と学習支援について①②③	
4	10・6	水		日本語学習支援の今後について	
5	15	水		●時間帯 13:00～15:00	
6	11・10	水		●参加者数 22人(男1人、女21人)	
7	12・1	水		●延べ人数 151人	
8	1・26	水			
9	2・9	水			
10	12	水			

●開設場所 多摩市民館

●時間帯 13:00～15:00

●対 象 関心のある方

●参加者数 22人(男1人、女21人)

●延べ人数 151人

多摩 識字ボランティア研修(2)

タイトル：日本語ボランティアブラッシュアップ研修

主 題：地域における日本語学習支援活動について

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	7・30	金	日本語学習支援のスキルアップを図り、地域に根ざした学習活動の充実をめざす	ボランティア同士や学習者との効果的なコミュニケーションの取り方について	i & i コミュニケーション・ラボ 代表 森山 貴代
2	8・4	水		地域性を考慮した学習方法について学ぶとともに、他都市の学習活動事例の理解を深める	東京外国语大学 多言語・多文化教育研究センター フェロー 吉田 聖子
3	25	水		地域を含めたグローバルな視点から外国人の現状を学ぶ	(財)海外技術者研修協会 日本語教育センター長 春原 憲一郎
4	27	金		これまでの研修を振り返り、地域における日本語学習支援について考える	吉田 聖子

●開設場所 多摩市民館

●時間帯 19:00～21:00

●対 象 関心のある方

●参加者数 30人(男4人、女26人)

●延べ人数 95人

多摩 識字ボランティア研修（3）

主 題：多様化する活動について 他都市の事例を学ぶ

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	7・ 2	金	多様化する活動について	見学を通して様々な日本語学習支援を学ぶ	武蔵野市国際交流協会 職員

●開設場所 武蔵野市国際交流協会 ●時間 帯 10:00～12:00

●対 象 日本語ボランティア及び関心のある方

●参加者数 5人（男0人、5人）

麻生 識字ボランティア研修（入門1～10・プラスアップ7～10）

タイトル：市民館で日本語ボランティアを始めよう！

主 題：多文化共生社会を目指して

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	9・ 4	土	川崎市では、外国人市民と日本人市民が共に学び合いながら相互理解を深め、自分たちが暮しているまちを「共に生きる社会」にしていくことを目にして、識字学級を開設している。「多文化共生のまちづくり」を担う資質を備えた新しい識字ボランティアを養成することによって、識字学習活動の活性化と更なる充実を図る	川崎の市民館における識字理念	橘分館 分館長 小柳 俊子
2	11	土		市民館における日本語ボランティアの活動とは	(財)かわさき市民活動センター 理事長 小倉 敬子
3	11	土		コミュニケーション能力を高めよう	日本ファシリテーション協会 会員 米国CTI認定コーチ 塙 博臣
4	18	土		外国人が日本語を学ぶときと日本人が日本語を学ぶときの違い	国際アカデミー日本語学院 学院長 渥美 明
5	25	土		日本語支援の場の作り方	にほんごの会 くれよん 石原 弘子
6	25	土		外国人市民が直面する課題を知る	東京外国语大学 多言語・多文化教育研究センター フェロー 吉田 聖子
7	10・ 2	土		初級・中級のコミュニケーション～どうやって会話を引き出そう～	LTC友の会 アドバイザー 山形 美保子
8	16	土		前回を振り返って	
9	23	土		上手な日本語の伝え方	
10	30	土		前回を振り返って ～まとめ～	

●開設場所 麻生市民館

●時間 帯 10:00～12:00、13:30～15:30

●対 象 関心のある方

●参加者数 49人（男10人、女39人）

●延べ人数 215人

多摩・麻生 識字ボランティア合同研修

主 題：日本語学習支援のさらなる充実をめざして

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	3・ 19	土	普段の学習活動を振りえることで、今後の学習に生かす	学習者の立場を体験する模擬学習について	東京外国语大学 多言語・多文化教育研究センター フェロー 吉田 聖子

*震災のため中止

●開設場所 麻生市民館

●時間 帯 14:00～16:00

●対 象 関心のある方

Ⅱ 3 社会人学級

1. 趣 旨

中学校は卒業しているが、いろいろな事情で十分に学習できなかった人が、中学校初級程度の学力を身につけるとともに、学習の楽しさを知り、自分で学んでいける力を培うことをねらいとする。

2. 対 象

市内在住または在勤の15歳以上の方

3 開催期間・時間

5月7日（金）～3月2日（水）18:30～20:30

4. 会 場

教育文化会館

5. 指導方針

原則として、国語・数学を中心に、週2回の学習で、いずれも中学校程度の学習を行なうが、学習者の学力・要望に応じて弾力ある学習展開を行なう。

6. 科目・内容・回数・講師

科目	主な学習内容			回数	講師・助言者など
国語	言語、詩、短歌、俳句、漢詩、隨想、物語、論語、読書、輪読、作文、和歌、童話、漢字、文集作成			30	元教師 藤原 治子
数学	数のいろいろ、正の数・負の数、文字式、方程式、平面図形、空間図形、確率			30	元教師 笠 ヒサ子
特別講座	音楽	歌唱を中心に秋の歌・懐かしい歌・現代の歌等 楽器の話、ハンドベルの合奏		2	元教師 高橋 フサノ 石田 洋子
	課外活動	ホームルーム：学級の運営方法などを話し合い、交流を深める		1	職員 藤原 治子 笠 ヒサ子

7. 受講者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0	0	1	2	0	4	4	0	11
女	0	3	1	0	1	9	5	0	19
計	0	3	2	2	1	13	9	0	30

8. 延べ人数

1,034人

Ⅱ 4 障がい者社会参加活動

教文 教文青年教室

主 題：共に生きる地域社会をつくるために

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	5・ 9	日	グループワークと コミュニケーション	自己紹介、班決め ミニ映画会	
2	6・13	日	社会と文化にふれる	東京ガス環境エネルギー館見学	
3	7・11	日		キリンビール工場見学とランチ	
4	9・12	日	グループワークと コミュニケーション	買い物から料理実習（カレーとサラダ）	
5	10・10	日	スポーツと仲間作り	スポーツ交流会（JFE水江体育館）	ボランティアスタッフ 職員
6	11・14	日		ボウリング大会（川崎グランドボウル）	
7	12・12	日	社会と文化にふれる	温泉でリラックス（ソレイユの丘）	
8	1・ 9	日	自己表現	初詣と新年会（稻毛神社、カラオケPIA）	
9	2・13	日	グループワークと コミュニケーション	今年度の反省と来年度の計画づくり	

●開設場所 教育文化会館 他 ●時間帯 主に 10:00～14:00

●対 象 市内養護学校、特別支援学級の卒業生等

●参加者数 34 人（男 23 人、女 11 人） ●延べ人数 238 人

幸 サンデーフрендパーク

主 題：地域の仲間といろんな事をやってみる

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	5・16	日		新年度顔合わせ、自己紹介	
2	6・20	日		工作・ゲーム（ゴルフ DE ボーリング）	ボランティアスタッフ
3	7・11	日		料理 1、ピザ作り	料理研究家 米井 智子 ボランティアスタッフ
4	8・22	日		旅行準備	
5	9・19	日		旅行（船の科学館）	ボランティアスタッフ
6	10・10	日		旅行（しながわ水族館）	
7	11・14	日	障がいのある人たち がさまざまな活動を通 して、社会参加に必 要な基礎的な知識・ 技術の向上を図り、 ボランティアなど地域 の人たちと共に学べ る機会を設け、地域 社会における仲間づく りを目指す	蕎麦打ち ※中原市民館との合同プログラム	さいわい蕎麦塾 瀬戸 盛悦 他 ボランティアスタッフ
8	12・ 5	日		ボッチャで遊ぼう	川崎ボッチャクラブ 新橋 さち子 ボランティアスタッフ
9	19	日		クリスマス会 ※中原市民館との合同プログラム	
10	1・15	土		もちつき、幸区地域教育会議行事参加	ボランティアスタッフ
11	2・13	日		バス旅行（イチゴ狩り、鋸山散策）	
12	3・ 6	日		まとめ	

●開設場所 幸市民館 他 ●時間帯 13:30～15:30

●対 象 主に市内在住の知的障がいのある方

●参加者数 8 人（男 6 人、女 2 人） ●延べ人数 69 人

中原 ヤングジャンプセミナー

主 題：仲間とともに輝こう☆

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	4・18	日	地域に溶け込むきっかけづくりと仲間づくりを促進し集団生活におけるルールやマナーを学ぶ	年間活動計画作成	ボランティアスタッフ
2	5・16	日		遠足（ラーメン博物館見学）	
3	6・20	日		バスハイク（鉄道博物館見学）	
4	7・25	日		料理実習（オムライス作り）	料理研究家 米井 智子 ボランティアスタッフ
5	9・18 19	土 日		合宿（青少年の家） レクリエーション 他	ボランティアスタッフ
6	10・10	日		スポーツ（ソフトバレーボール・バトルテニス）会場：とどろきアリーナ	とどろきアリーナ職員 ボランティアスタッフ
7	17	日		遠足（鎌倉）	ボランティアスタッフ
8	11・14	日		蕎麦打ち体験 会場：幸市民館 ※幸市民館との合同プログラム	さいわい蕎麦塾 ボランティアスタッフ
9	21	日		スポーツ（ダンス・卓球）	武 幸子、笠原 達子
10	12・19	日		クリスマス会 ※幸市民館との合同プログラム	
11	1・16	日		バスハイク（新江ノ島水族館）	ボランティアスタッフ
12	2・20	日		ものづくり	
13	3・20	日		まとめ・振り返り *震災のため中止	

●開設場所 中原市民館 他

●時 間 帯 主に 9:30 ~ 14:00

●対 象 障がいのある方

●参加者数 35人（男18人、女17人）

●延べ人数 258人

高津 日曜ふれあい広場

主 題：生き生きとした学習活動と社会参加

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	5・16	日	同じ地域の仲間や、ボランティアスタッフとさまざまな内容の実習や学習活動を行ない、コミュニケーションと余暇の充実、地域社会への参加を図り、ノーマライゼーションの理念に基づき共に生きる地域社会の実現を目指す	自己紹介、連絡帳・年間計画作成	ボランティアスタッフ
2	6・20	日		料理実習（ミートローフ、マカロニサラダ、フルーツポンチ）	
3	7・18	日		外食体験（マルイレストラン街）	
4	9・19	日		工場見学（武蔵野ビール工場）	
5	10・17	日		運動会（県立高津養護学校体育館）	協力 県立高津養護学校
6	11・21	日		バスハイク（マザー牧場）	ボランティアスタッフ
7	12・19	日		クリスマス会	
8	1・23	日		バスハイク（油壺マリンパーク）	
9	2・20	日		高津三館まつり見学	
10	3・20	日		振り返り、保護者会 *震災のため中止	

●開設場所 高津市民館 他

●時 間 帯 10:00 ~ 14:00

●対 象 主に区内在住の障がいのある方

●参加者数 39人（男27人、女12人） ●延べ人数 303人

宮前 みやまえウィンズ

主 題：ノーマライゼーションの理念に生きる地域社会の実現を目指す

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	5・ 9	日	いろいろな体験を通じて余暇活動の充実を図るとともに、みやまえウィンズを通じて、仲間やサポーターとのつながりあいを強める	ミーティング（自己紹介、今年度の活動についてなど）	ボランティアスタッフ 職員
2	6・ 13	日		ゲーム大会	
3	7・ 11	日		バスハイク（油壺マリンパーク）	
4	9・ 12	日		東高根森林公園へハイキング	
5	10・ 10	日		楽器づくり・うたと演奏	ボランティアスタッフ 歌唱・演奏指導 井出 絵理子
6	11・ 7	日		ミーティング（後半の活動について）・ボーリング	
7	12・ 12	日		クリスマス会	
8	1・ 9	日		バスハイク（城ヶ島といちご狩り）	
9	2・ 13	日		音楽を聞きながら絵を書こう	ボランティアスタッフ 職員 井出 絵理子
10	3・ 13	日		お疲れ様会（スライドショー） 保護者会	

●開設場所 宮前市民館 他

●時 間 帯 10:00～14:00

●対 象 区内在住の障害のある方

●参加者数 19人（男14人、女5人）

●延べ人数 239人

多摩 青年教室

主 題：地域の仲間と充実した社会生活を！

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	5・ 16	日	年間をとおした団体活動をすることで、参加者同士の仲間づくりを図る。また、地域の人や様々な分野の専門家からの指導や交流とおして、地域社会への関わりを促す場とする	オリエンテーション	ボランティアスタッフ 職員
②	6・ 12	土		料理体験①（韓国料理を作ろう） ボッチャにチャレンジ①	ボランティアスタッフ 市民館利用団体 職員
③	7・ 24	土		料理体験②（そば打ち体験） ボッチャにチャレンジ②	
④	9・ 4	土		バスハイク①（東京ドイツ村）	ボランティアスタッフ 職員
⑤	10・ 2	土		バスハイク②（新江ノ島水族館）	
6	11・ 29	土		アート体験①（クーピーホームアート体験）	専門指導者 ボランティアスタッフ 職員
⑦	12・ 4	土		アート体験②（毛糸のバッグを作ろう） 冬のお楽しみ会	
⑧	1・ 29	土		アート体験③（絵巻を作ろう）	
9	2・ 12	日		たま学びのフェア準備	ボランティアスタッフ 職員
10	3・ 12	土		たま学びのフェア *震災のため中止	

※②と③、④と⑤、⑦と⑧については、選択により活動（冬のお楽しみ会は全体活動）

●開設場所 多摩市民館 他

●時 間 帯 主に 10:00～15:00

●対 象 区内在住・在勤の障がいのある方

●参加者数 36人（男21人、女15人） ●延べ人数 262人

多摩 ボッチャで遊ぼう

主　題：障がいのある人と健常者がいっしょに競技を行うことでお互いを理解し交流を深める

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	10・9	土	障害のある方と健常者との関係は、主に支援される側と支援する側という関わりになりがちであるが、それだけではなく、人と人として同じ立場で競い合い、競技を通じて喜びや悔しさを共有して相互理解を深める場をつくる	ボールを「触る」「握る」「投げる」「ひろう」「転がす」などの基本動作から身体を動かすことを学ぶ。いっしょにボッチャをする楽しさを感じあう	ボッチャ競技者 秋元 妙美
2	11・13	土		ゲーム形式で行うことで集中力や向上心を身につける。チームを組むことでコミュニケーションを促進し、連帯感を育む	
3	27	土			
4	1・15	土			
5	3・20	日		楽しむことから勝ち負けの悔しさを経験し向上心へつなげる	

●開設場所 多摩市民館 ●時間帯 13:00～15:00

●対象 身体障がいのある方、健常者

●参加者数 13人(男3人、女10人) ●延べ人数 25人

麻生 麻生青年教室

主　題：地域で仲間と明るく、楽しく、未来へ

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	5・16	日	障がいのある仲間と共に生きる社会をめざす	開講式(自己紹介とマジックショー)	新百合マジッククラブ 松澤フキ子
2	6・20	日		コース別活動～ボーリングと料理	ボランティアスタッフ
3	7・18	日		ゲーム大会	
4	9・19	日		コース別活動～カラオケと料理	
5	10・24	日		バスハイク(富士五湖)	
6	11・28	日		野外でバーベキュー(黒川野外活動センター)	
7	12・19	日		みんなでお食事会とインドネシア舞踊	ボランティアスタッフ プスパメカール
8	1・16	日		おもちつき	ボランティアスタッフ
9	2・20	日		かがやいて麻生体操と音楽あそび	麻生運動普及推進の会 ボランティアグループ ハーモニー
10	3・20	日		バスハイク(狭山で苺狩り) *震災のため中止	ボランティアスタッフ

●開設場所 麻生市民館 他 ●時間帯 10:00～15:00

●対象 区内在住・知的障がいのある青年

●参加者数 33人(男24人、女9人) ●延べ人数 264人

Ⅱ 5 障がい者ボランティア研修

生涯学習推進課 障がい者社会参加活動ボランティア合同研修

主 題：障がい者社会参加活動のこれまで・これから

回	月日	曜	学習課題	学習内容	講師・助言者など
1	12・18	土	活動の意義、社会における役割、ボランティアや職員のあるべき姿を考え、これから活動にあたっての姿勢を共有する	「学びあう障がい - 障がい者（青年）学級のこれまでとこれから」 ・障がい者青年教室が広がってきた経緯 ・福祉の場との違い ・ボランティアと職員、それぞれの役割	明治大学 教授 小林 繁
2			情報交換を通じて、ボランティア同士の交流とつながりをつくる	講義の振り返りと話し合い	職員

●開設場所 高津市民館 ●時 間 帯 9:15～11:50

●対 象 障がい者社会参加活動ボランティア及び関心のある方

●参加者数 18人（男6人、女12人）

